

2023年度 第2回町田市男女平等参画協議会 議事要旨

日時： 2023年10月16日（月） 9時30分～11時30分

場所： 町田市庁舎10階 会議室10-3

出欠： 五十音順・敬称略

出席：石川 英子、石阪 督規、岡本 直子、下田 幸子、鈴木 悟、茶谷 武志、
山口 隆三、横島 佳子（10名中8名出席）

欠席：近藤 わかな、吉浦 和幸

議事：

1 男女平等参画協議会 石阪会長 あいさつ

2 (1)一人ひとりがその人らしく生きるまちだプラン（第5次町田市男女平等推進計画）の進捗状況について

一事務局から資料2「第5次男女平等推進計画」町田市男女平等推進会議からの評価・総評(案)を説明—

～I-1 お互いを尊重し合う意識の醸成～

【委員】町内会・自治会の電子回覧板「いちのいち」を活用してはどうか。

【会長】高齢者は紙ベース、若年層は電子など年代ごとに効果的な情報発信をする必要がある。

【委員】情報発信だけでなく仕組みを変えなければならない。市役所が変わらないと男女平等は進まない。管理職の人事評価に男女平等に関する項目があるか。

【事務局】明確な評価の指標は明示されていないが考え方として大事であると認識している。職員の意識啓発として男女平等や性の多様性に関する研修を毎年実施している。

【会長】管理職の人事評価項目に入れるよう検討していただきたい。

【委員】公共施設で広報を行っていると思うがどの施設まで広げて広報できているか。公共施設での広報を充実させることも大切である。公共施設で広報ができているならば民間施設に広げることも考える必要がある。

【委員】各施設の利用者に合わせて発信していくと良い。

【委員】啓発方法の1つであるパンフレットには、言葉よりもイラストを多く取り入れると見やすい。

【事務局】現状として、行政職員向けには毎年研修等を通して意識の醸成を進めている。学校向けの意識の醸成として今年度教職員向け研修を実施予定である。さらに子どもたちへ情報を届けるための仕組みを教育委員会へ確認し、教育委員会で主体性をもって進めてもらうようアプローチしていきたいと考えている。

【委員】義務教育だけでなく専門学校や大学など意識の高い若い世代へ情報発信していくと良い。

～I-2 配偶者等からのあらゆる暴力の根絶～

【委員】加害者更生の仕組みが必要である。

【事務局】国や東京都で更生プログラムを通して加害者支援を実施している。プログラムはあるが実際に更生するかどうかが課題と聞いている。東京都男性悩みごと相談の中で加害者からの相談があると聞いている。市の取組としては、被害者支援の取組を進めている。

【委員】DV被害を受けている方がどのような状況にあるか把握しているか。

【事務局】加害者から逃げたり、離婚に向けて法律相談など具体的に動いたりする方もいるが、経済的理由や子どもを理由に離婚まで踏み切れない方が多い。

【会長】市の役割は窓口を周知し必要な窓口につなぐことである。DV相談窓口の周知用カードはどこに設置されているか。

【事務局】町田市内にある商業施設や大学の女性トイレに設置している。管理上カードを設置できない事業所についてはポスターを掲示している。

～Ⅱ-1 雇用や職業等の場における男女平等参画の推進～

【委員】町田市の正規社員と非正規社員の比率はどうか。

【会長】一般的に非正規社員の方が多く、非正規社員は女性が多い。

【委員】女性でも非正規社員を希望する方もいれば、女性の収入が多く男性が育休を取得するというご家庭もありニーズは様々である。正規社員、非正規社員など働きたい方のニーズに合わせていく必要がある。

【委員】育児しながら働ける環境を求めているが、求人とマッチングできていない。

【会長】正規社員で柔軟な働き方ができると良い。

【委員】中小企業は育休や時短勤務に係る支援体制が整っていないため厳しい状況である。

【委員】派遣会社などにサポートする人材を依頼するとかなり高くつくため企業も簡単には依頼できない。

【委員】人材不足で育休や時短勤務などの制度を活用することが難しい現状である。

【会長】支援体制について市の対策が求められている。ワーク・ライフ・バランス推進における課題点など民間企業へアンケートを実施し市としてどのような支援ができるか検討してみてもどうか。

【会長】企業への周知は、企業向けのセミナーも有効と考える。

【委員】トップが変わらないと会社は変わらない。子育てにより働くことができなくなった潜在的な人材を活用できる場が必要である。

【委員】セミナー開催だけでなく働き方改革に関する専門家の派遣などの情報を市が発信し、派遣費用の助成をして事例を増やしていくと良い。

【委員】市内の専門家に相談することで、身近な専門家に相談できる気軽さ、市内の専門家の方の仕事の創出などにつながり双方にメリットがある。

～Ⅱ-2 仕事と家庭生活の調和に向けた育児・介護の支援～

【委員】子育てに関する取組は継続していくことが大切である。子育て世代の住みやすさなどの情報を発信することで次世代につながり、より子育てしやすい町になると考える。

【委員】健康支援など介護が必要になる前の取組をさらに進めて欲しい。

【会長】女性の働き方に影響する問題であり、みんなで負担をシェアする仕組みが必要である。

～Ⅱ-3 あらゆる分野における男女平等参画の推進～

【会長】町田市役所における審議会や管理職の女性比率の現状はいかがか。

【事務局】審議会は30%前後を推移している。管理職は20%前後を推移している。

【会長】目標値に達しているか。あるいは増加しているか。

【事務局】目標値に達していない。現状維持である。

【会長】目標値に向かって増えていないことが課題である。東京都内の区部・市部における順位

はどうか。

【事務局】例年 30 番前後である。

【会 長】近年市役所の残業が多いと聞いている。

【事務局】市役所全体で効率的に業務が進められるような取組の検討が進んでいる。

【委 員】町田市役所はフレックスタイム、リモートワークを導入しているか。

【事務局】時差勤務の仕組みがある。リモートワークも実施している。

～全体～

【委 員】全体的に C が多い印象である。B と C がある項目についてどのように評価したのか。

【事務局】男女平等推進会議委員のそれぞれの評価の平均値で評価している。評価が分かれた項目は総評をふまえ事務局で判断した。評価についてご意見あればうかがいたい。

【会 長】評価について異議はない。

【委 員】パンフレットは置き場所や取りやすさを考えると小型サイズが良い。教育現場では、男女平等だけでなく人権教育やリカレント教育が重要であると考えます。男女平等推進は性別でなく個の能力を重視すべきである。

【事務局】民間事業所のテレワークの現状を教えてください。

【委 員】頻度は多少減少しているが 0 にはならない。多様な働き方の一つとしてテレワークを継続しながらコミュニケーションも大切にしていきたい。

【会 長】遠方とのやり取りは、移動時間や旅費等を考えるとオンラインが有効である。

(2) 仕事と家庭の両立推進企業賞の見直しについて

—事務局から資料 3「町田市仕事と家庭の両立推進企業賞エントリーシート」を説明—

【会 長】認証制度になった場合、認定企業のメリットなどを考えなければならない。

【事務局】雇用とつながるようなメリットなどを検討していきたい。

【委 員】求人情報に掲載できると良い。認証マークも有効であるため検討していただきたい。

【会 長】エントリーシートは昨今の社会情勢に合わせた見直しが必要である。

【委 員】現エントリーシートの作成に社労士が携わったが、文章が非常に堅い印象なので表現の工夫が必要である。

3 事務連絡

次回の参画協議会、今後の計画進捗評価のスケジュールについて確認。

以上